

2017年(平成29年)2月24日(金) 厚生福祉 第3種郵便物認可

地域を支える

876



株式会社エスプープラス

障害者向け農園運営・千葉県船橋市

障害者向けの労働環境を追求

障害者雇用のコンサルティング会社「エスプープラス」は知的障害者向け農園「わーくはびねす農園」を千葉県内6カ所で運営している。

農園内では、障害者が快適で生き生きと働ける環境を追求。企業に対しては法定雇用率の達成を促している。

エスプープラスは、「一人でも多くの障がい者雇用を創出し、社会に貢献する」という企業理念の下、2010年から事業を開始。現在、知的障害者を中心に約450人が企業と労働契約をし、わーくはびねす農園で就労している。

2015年のデータでは、全国の障害者約788万人のうち、民間企業に雇用されている障害者は全体のわずか5%の36万人。障害者雇用促進法は、50人以上の企業に障害者雇用を義務付けているが、障害者の職場定着率が低いことや業務創出が困難なことにより、雇用が進んでいないという。

エスプープラスのサービスは、障害者の人材の確保から始まる。福祉施設や特別支援学校から就労者を募集し、わーくはびねす農園の説明会を開催。企業は、集まった障害者

と社員契約を結ぶ。現在、約100社がエスプープラスと契約している。

わーくはびねす農園は障害者が生き生きと働けるような工夫が施されている。エスプープラスの和田一紀社長は、「親の理解を得ることが大切だ」と話す。労働環境が障害者に与える悪影響を気にして、親が就労に反対するケースが多いという。そこで、わーくはびねす農園では、土の代わりに軽石を使用。土を耕さなくてもよい上に、土ほりもない。

また、園内に設置されているピニールハウスの内には、暖房器具を設置。ハウス内の気温は7度を下回らないようになっていく。

和田社長が障害者の事業を始めたきっかけは7年前、親会社である「エスプープール」の浦上社平代表取締役任に話を持ち掛けられたことだった。「障害者は雇用機会に恵まれていないのではないか」との思いで、引き受けた。

事業を始めてから3年は、赤字続きだったという。当初、生産された野菜などを販売していたが、納期の調整や商品の管理に苦労した。

そこで、E.S(従業員満足度)の概念を事業に取り入れた。

わーくはびねす農園で生産された果物や野菜は、現物支給の福利厚生として、企業の社員に渡される。障害者雇用の意義が社員に浸透し、社員からのフィードバックが障害者のやる気向上につながっている。

和田社長は、「健常者と同じように、働いた賃金を消費することが大切だ」と話す。生産性を求めるのではなく、障害者が生き生きと生活することを重視。わーくはびねす農園で働く障害者の定着率は6年間で95%となっている。

1月1日、千葉県内6カ所目となる「わーくはびねす農園 船橋ファーム」の開園式が行われ、松戸徹船橋市長ら、200人が参加。船橋ファームでは、31人の障害者が働いている。

2018年には、法定雇用率が現在の2%から最大2.4%まで上がることが確実視されているといい、和田社長は、「2019年までに、1000人の障害者を雇用することが目標」と意気込む。

【関 博志・千葉支局】